

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

病虫害発生予報第 1 号 (3 月)

予報の概要

作物名	病虫害名	予想発生量 < 平年比 (前年比) >
チャ	カンザワハダニ	山城 並 (やや多) 丹波 並 (並) 丹後 並 (並)

※平年とは過去 10 年の平均である。

■■■■■■■■■■ 目 次 ■■■■■■■■■■

予報の概要	1
予報本文	2
参考	
I 近畿地方の気象の 1 か月予報 ..	3
II 用語の定義	3
III 予報本文の見方	4

農作物病虫害情報サービス

ホームページ

<https://www.pref.kyoto.jp/byogai/>



QR コード

※QR コードは株式会社

デンソーウェーブの登録商標です

予報本文

チャ

1 カンザワハダニ

予報内容 発生量：山城：平年並（前年比やや多）
丹波：平年並（前年並）
丹後：例年並（前年並）

予報の根拠

- (1) 2月第5半旬現在、発生量は山城で発生を認め平年並、丹波および丹後では発生を認めていない（丹波：平年並、丹後：例年並）。
- (2) 産卵は山城、丹波、丹後のいずれの地域でも認めず、産卵葉率はいずれの地域ともに平年並（例年並）。
- (3) 発生ほ場率は山城、丹波で平年並、丹後で例年並。
- (4) 向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並と予想されている。

地域	項目	本年	平年値	前年値
山城	寄生葉率（％）	0.2	0.3	0.0
	産卵葉率（％）	0.0	0.1	0.0
	発生ほ場率（％）	9.1	12.9	0.0
丹波	寄生葉率（％）	0.0	0.2	0.0
	産卵葉率（％）	0.0	0.0	0.0
	発生ほ場率（％）	0.0	11.7	0.0
丹後	寄生葉率（％）	0.0	0.3	0.8
	産卵葉率（％）	0.0	0.0	0.0
	発生ほ場率（％）	0.0	25.0	75.0

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 越冬雌成虫は休眠から醒めると、体色が朱色から濃赤色に変わり、活動を始める。
- (2) 卵は日数が経つにつれ、透明から黄色となり、ふ化が近づくと赤みを帯びる。
- (3) 越冬虫数が多いと、春期の発生も多くなる傾向がある。気温が上昇し、暖かく晴れた日が続くと、急速に産卵、増殖するので注意する。
- (4) 幼若虫の発生が認められる園では、防除適期を逃さないよう注意する。
- (5) 一番茶期の農薬散布を避けるため、萌芽前の防除を徹底する。
- (6) 毎年多発する園や秋期に防除しなかった園では、特に注意する。

参 考

I 近畿地方 1か月予報

(2月26日から3月25日までの天候見通し)

令和4年2月24日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下の通りです。

近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率40%です。降水量は、近畿日本海側、太平洋側ともに平年並または多い確率ともに30%です。日照時間は、近畿日本海側、太平洋側ともに平年並または少ない確率ともに30%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	30	30	40
降水量(日本海側)	40	30	30
降水量(太平洋側)	40	30	30
日照時間(日本海側)	30	30	40
日照時間(太平洋側)	30	30	40

病虫害防除所では上記の天候の1か月予報の表現を「向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並と予想されている。」としました。

II 用語の定義

1 半旬のとり方

第1半旬 第2半旬 第3半旬 第4半旬 第5半旬 第6半旬
各月の 1～5日 6～10日 11～15日 16～20日 21～25日 26～最終日

2 発生量――病虫害の発生程度と広がり両面を加味したものをいう。

3 平年値――原則として過去10か年の平均とする。
データが10年に満たない場合は例年値とする。

4 平年値との比較

1) 時期

平年並	平年値を中心として前後2日以内
やや早い	平年値より3～5日早い
やや遅い	平年値より3～5日遅い
早い	平年値より6日以上早い
遅い	平年値より6日以上遅い

2) 量(発生量、発生面積等)

平年並	平年値並の発生で10年間に4回は発生する程度の普通の量
やや多い	「平年並」より発生が多く、10年間に2回程度の頻度で発生する量
やや少ない	「平年並」より発生が少なく、10年間に2回程度の頻度で発生する量
多い	「やや多い」より多く、10年間に1回程度しか発生しない量
少ない	「やや少ない」より少なく、10年間に1回程度しか発生しない量

Ⅲ 予報本文の見方

1 チャノコカクモンハマキ

予報内容 発生量：山城 平年比やや多い（前年比やや多い）
 丹波 平年並（前年並）
 丹後 例年並（前年並）

- ・「予報内容」は、今後の病害虫発生状況や発生時期の予測を平年比で示しています。
- ・平年比の見方は、「Ⅱ 用語の定義、4 平年値との比較」を参照してください。
- ・（ ）内の前年比は予想月の前年の発生量（時期）との比較です。
- ・必要に応じて地域別に示します。

予報の根拠

- （1）前年10月の発生量は、山城、丹波、丹後で平年並の発生。
- （2）4月中旬現在、山城で平年比多く（+）、丹波、丹後で発生を認めていない（平年（例年）並）。

地域	項目	4月の調査結果	4月平年値
山城	綴葉数(/㎡)	3.0	0.1
	幼虫数(/㎡)	0.5	0.0
	発生ほ場率(%)	22.7	3.7
丹波	綴葉数(/㎡)	0.0	0.5
	幼虫数(/㎡)	0.0	0.0
	発生ほ場率(%)	0.0	11.7
丹後	綴葉数(/㎡)	0.0	0.0
	幼虫数(/㎡)	0.0	0.0
	発生ほ場率(%)	0.0	0.0

- ・「予報の根拠」として直近の巡回調査のデータの中で主だったものを示しています。平年値も記載しているので、防除等の目安としてください。

- （3）4月中旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は、宇治で平年比少ない（-）。

発生生態及び防除上注意すべき事項

- （1）幼虫で越冬し、春に羽化した成虫が発生源となるので、前年秋に多発した園では注意する。
- （2）通常、第1回目のふ化期は5月末～6月始めで、4回世代を繰り返す。
- （3）ふ化した幼虫は成長すると、葉を綴って食害するようになり、薬剤がかかりにくくなるので、ふ化直後の若齢幼虫期の防除が効果的である。

- ・「予報の根拠」は、巡回調査の結果、天候、フェロモントラップや予察灯への誘殺状況、指導機関からの情報等、「予報内容」で示した発生量や発生時期の予測の根拠となった事項を記載しています。
- ・文中の（-）、（+）は、予測される発生量に影響を及ぼすと考えられるもので、（-）の場合発生が少なくなると考えられる要因、（+）は発生量が多くなると考えられる要因を示しています。

- ・「発生生態及び防除上注意すべき事項」は、当該病害虫の生態、薬剤防除や耕種的防除方法の留意事項、要防除水準等を示しています。

農業改良普及センター 電話番号一覧

・ 京都乙訓	農業改良普及センター	0 7 5 - 3 1 5 - 2 9 0 6
・ 山 城 北	農業改良普及センター	0 7 7 4 - 6 2 - 8 6 8 6
・ 山 城 南	農業改良普及センター	0 7 7 4 - 7 2 - 0 2 3 7
・ 南 丹	農業改良普及センター	0 7 7 1 - 6 2 - 0 6 6 5
・ 中 丹 東	農業改良普及センター	0 7 7 3 - 4 2 - 2 2 5 5
・ 中 丹 西	農業改良普及センター	0 7 7 3 - 2 2 - 4 9 0 1
・ 丹 後	農業改良普及センター	0 7 7 2 - 6 2 - 4 3 0 8

京都府病害虫防除所

〒621-0806 京都府亀岡市余部町和久成9

TEL 0771-23-9512

FAX 0771-23-6539

－農薬の使用にあたっては使用基準を遵守すること－